

# 那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区

創立 1962 年 6 月 4 日

2018年6月27日

週報 第2525号



ロータリー:  
変化をもたらす

## プログラム案内

- 本日のプログラム  
6月27日(水)
- ・点鐘・ロータリーソング
  - ・日も風も星も
  - ・会長報告・幹事報告
  - ・立食
- 次回予定
- ・新年度役員挨拶

### 四つのテスト

- 1、真実かどうか
- 2、みんなに公平か
- 3、好意と友情を  
深めるか
- 4、みんなの為に  
なるかどうか

## 例会報告

第2642回(2018年6月20日)

### 出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
62名	32名	30名	52%	66%

### 欠席会員

石川、名幸、高田、宮里、具志堅、上原、大城(博)  
大濱、儀部、宮内、大庭、福重、照屋(義)、久保  
立津、石川(元)、城間(久)、照屋(俊)丸橋  
照屋(紀)奥野、本島、近藤、平尾、東  
比嘉(芳)宮城、與儀、中村、橋本会員

### Make Up

照屋義実(6/15浦添)糸洲 昇(6/17IAC)  
石川元義( ) 新里 孝( )  
大城純市(6/17IAC) 儀部頼人( )

### ビジター

有松秀行(那覇東)

### ゲスト

運天政次(学校法人尚学学園)

会長 大嶺 香 副会長:具志堅一真・大城純市  
幹事:比嘉広明

例会日 毎週水曜日 12時30分

例会場ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

事務局 那覇市松山1-1-14 那覇共同ビル6階

TEL:861-7824 FAX:861-7825



### ニコニコ BOX

合計 ¥2,000 累計 ¥399,500

大嶺 香 名城理事長 卓話宜しくお願いします。

### 会長報告



今年度も残すところ後2回となりました。

寂しいような嬉しいような複雑な思いですが最後まで宜しくお願いします。

昨日のワールドカップロシア大会でサッカーの日本代表が事前の下馬評を覆して見事勝利を収めました。皆さんもテレビで観戦したのではないかと思います。

前回のブラジル大会では1勝もできずに敗退したが、日本のサポーターが試合の終わったあとスタジアムのゴミ拾いをする姿が世界中から称賛された。日本は試合には負けたけどサポーターは世界一、日本の道徳心は素晴らしいと称賛された。今回のワールドカップでは、コロンビアとの試合後に日本人サポーターはスタジアムのゴミ拾いをした。それを見たコロンビアのサポーターも一緒になってゴミ拾いを行った。通常ワールドカップと

かなるとサポーター同士の小競り合いとかが多いが、一緒にゴミ拾いをしたことで非常に有効的な雰囲気がスタンドにあった。

それに触発されたか、別の会場で行われたセネガル対ポーランド戦ではセネガルのサポーターが日本のサポーターと同じように会場のゴミ拾いをしたということで素晴らしい動きは広がっていると思う。日本人として非常に誇りに思うし自分もそうゆうところで恥ずかしながら積極的に行動できるようにしなければと感じた。

## 幹事報告

### 2017-18年度「青少年交換派遣学生帰国報告・来日学生帰国前合同報告会」

日時：2018年7月12日（木）

12:00～12:30 受付

12:30～13:10 合同例会

13:10～14:00 報告会・歓送会

会場：沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ6階

ビジター費：2,000円

※ 参加希望の会員は事務局迄ご連絡下さい。

## 6月度お誕生日祝い

仲本榮章（6月8日）石川元義（6月19日）

三浦 勉（6月18日）安里清榮（6月23日）

## 大城純一会員より

昨年度の米山奨学生、周祖恵さんから報告がありました。ジェトロの広州事務所に就職（内定）が決まりました。日系企業の中国進出に関する仕事など日本と中国の架け橋になる仕事に従事することができました。

## 三浦会員より（沖縄スポーツの紹介）

サッカーの元日本代表の高原選手が沖縄SVという新しいプロサッカーチームを立ち上げて3年。このチームが天皇杯沖縄県予選の決勝で琉球FCと対戦し4対1で敗れたがチーム創設3年目にして決勝まで進み、今後楽しみなチームとなってきた。九州リーグで優勝すると念願のJFLの加入が決まるということで選手も熱くなっている。応援よろしくお祈いします。琉球ゴールデンキングスも順調にBリーグで成長を続けている。バスケットは沖縄県が全国で一番盛り上がり地域振興にも繋がっていると思う。女子サッカーチームの琉球デイゴスも頑張っています。応援とご支援よろしくお祈いします。

## 卓話 名城正次郎 会員

私の体験から学んだとこ「怖れず、驕らず、侮らず」



沖縄尚学には2つの学校訓がある。私が目指しているのは、この理念を日常生活の中で行動に移し皆に感謝される人間を作ること。親近感と風格のある学園作り「親近感と風格」「温かさと厳しさ」に感謝する社会を本気で作らないといけない。作る自信のある人を育てたいと思い学校を作った。私の歩んだ道は天が味方してくれなければ自分ひとりの力では出来なかったと思う。

学校訓は、①私たちは、「怖れず 侮らず 気負わず」やるべきことに取組みます。②私たちは、「暖かみ 厳しさ 知性」を身につけ「感謝と奉仕」の心を実践します。この2つを皆が心得れば社会はレベルの高いものになる。私は、台湾で生まれ母方の愛知で育ち1950年に父の故郷である沖縄に帰ってきた。小学校の教員や軍で働き名古屋の学校で通訳・翻訳の資格を取得した。当時の沖縄は平和教育が中心で良い人材を作るという感じではなかった。沖縄をもっと認めさせたくて講演活動や翻訳もかなりやった。教え子も医者や学校の先生に多くなっている。今の社会は私が願っていた社会とかけ離れていると思い毎週日曜日ラジオで4年間啓蒙したがあまり良くなならない。昭和57年12月に沖縄高校から話があり昭和58年4月から沖縄尚学として校名を改称してスタートした。厳しい経営状態であったが頑張ってきた。59年は200名募集に対して750名の応募がきた。学校運営は過去の経験を元にトップダウンで行ってきた。本来であれば周りの意見を聞けば良いのだが経験者がいないため意見の出る状況ではなかった。ある時、体育コースはやめて進学コースに絞ったらと意見がでた。私は人間教育には絶対必要だと思い体育コースは残した。柔道、テニス、薙刀、野球と素晴らしい結果がでた。私の決断は良かったと思う。親近感と風格を感じさせる存在、社会、国家そういうものがどんどん生まれてくると良いなと願っています。